

第 37 回生命の起源および進化学会学術講演会への参加紀行文
横浜国立大学院工学府機能発現工学専攻
先端物質化学コース 小林研究室
修士 1 年 江藤碧
eto-midori-rp@ynu.ac.jp

2012 年 3 月 7 日から 9 日までの 3 日間に行われた、第 37 回生命の起源および進化学会学術講演会に参加させていただきました。当時、私は学部 4 年生で、卒業論文の発表を終えた直後の初めての学会であり、今後の研究に対する考えを改めて考えることが出来たので、そのときの参加紀行文をここにまとめたいと思います。

本学会は、初めての学会ということで、まず卒業論文の発表の時に達成できなかった点、相手に分かりやすく伝えることについて、1 番注意を払って発表を行いました。具体的には、早口で読まないよう、なるべくゆっくり話し、スライドを指すポインターも話す速度に合わせ、またスライドの進めるタイミングも一呼吸おいてから、次を進めるように気をつけました。

私は、『軟 X 線/極端紫外光照射による L-アラニンの分解と変成』というテーマで発表を行いました。本研究では、L-アラニンに放射光を照射し、その変成と分解を陽イオン交換高速液体クロマトグラフィーとガスクロマトグラフィー/質量分析計を用いて分析を行いました。当日この研究で調べ、得た知識をしっかりと伝えるように気をつけたと思っていたのですが、行った実験の内容、その実験からどのようなことが言えるかのみとなってしまう、この学会の名前でもある『生命の起源及び進化』ということを質疑・討論の時間に、ご指摘を頂き、その時初めて深く考えていないことに気付かされ、とても刺激を受けました。この経験を活かし、今後の研究では生命の起源と進化にどのように結びついていくのかということを常に念頭に置きながら取り組んでいきたいと思えます。

今回、私情により初日のみの参加となってしまうしました。初日のプログラムでは、シンポジウムのお話にとっても興味を持ちました。難しいこともより分かりやすく説明して下さり、また学会という場で、普段は聞くことが出来ない貴重な研究について知ることができ、とても勉強になりました。最後に、学会での発表という貴重な機会を頂くことができ、また、ご指導ご鞭撻を行ってくださったことに、心より感謝致します。ありがとうございました。

第 37 回生命の起源および進化学会学術講演会に参加して
横浜国立大学大学院工学府河合 純
Graduated School of Engineering of Yokohama
National University
Jun Kawai
d09sa504@ynu.ac.jp

2012 年 3 月 7 日から 9 日、大阪薬科大学にて開催された生命の起源および進化学会は、私にとって初めての参加になりました。今まで参加はしたかったのですが、都合に恵まれず、今回参加できたことは私にとってとても貴重な体験になりました。私は、模擬タイタン湖における化学進化に関する研究について口頭発表いたしました。参加した当初は、ポスター発表と誤って、当日のぎりぎりまでパワーポイントを修正して頂いた小林憲正先生にはこの場を借りて、心から感謝をいたします。また、適切なアドバイスを頂いた金子竹男先生、大林由美子先生、栗原正広さんに御礼を申し上げます。

タイタンは土星最大の衛星で窒素やメタンの大気を持ち、エネルギーとして紫外線、土星磁気圏に捕捉された電子、宇宙線などのエネルギーにより多様な有機物ともやの生成が観測されています。カッシーニ=ホイヘンス探査により、タイタン表面の平均温度は 93.7K で、液体エタンなどからなる湖沼の存在が明らかとなり、また地下にアンモニア水が存在することが示唆されました。また、種々の地上模擬実験により、模擬タイタン大気から炭化水素、ニトリル等の有機物や、高分子態有機物「ソーリン」が生成することが確認されています。模擬実験で生成されたタイタンソーリンを用いて、自己集合体が生成されることを調べました。

今回の実験するにあたり、機会の提供を頂いた Bishun Khare 博士、Chris McKay 博士そして実験のサポートをしてくれた Seema Jagota 博士、適切な助言をくださった David Deamer 博士には心から感謝いたします。

この学会を開催するにあたり会場を用意してくださった浦田秀仁先生、シンポジウムに David Deamer 博士、William Irvine 博士、Sun Kwok 博士、Sandra Pizzarello 博士を呼んでくださった三田肇先生には心から御礼を申し上げます。